

MATSUO TOSHIO A RETROSPECTIVE

文化勲章受章者

松尾敏男展

—— 毎日が常に出発である ——

須賀川の牡丹から横綱白鵬関の化粧まわしまで

2018年10月27日(土) — 12月2日(日) 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
※11月12日(月) 26日(土)は施設点検のため休館いたします。

会場：砺波市美術館 1階 企画展示室、2階 常設展示室

観覧料：一般600円(500円)/高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金、65歳以上の割引料金

※ 障がい者(介護者1名を含む)/無料(入館の際に証明できるものを提示下さい)

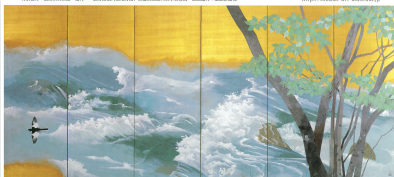
富山新聞創刊95周年記念

主催：公益財団法人砺波市花と緑と文化の発信・砺波市美術館、富山新聞社、北國新聞社、共催：北日本放送
後援：とんみ富山放送テレビ、ユフエムとんみ、とんみ富山文化の会、協賛：砺波市文化振興会 2018
特別協力：富山県美術館、協力：一般財団法人松尾敏男、公益財団法人日本美術会、山形県立美術館

TONAMI ART MUSEUM

砺波市美術館

〒929-1363 富山県砺波市高道1-6-1
(砺波チューリップ公園内)
TEL:0763-32-1800 FAX:0763-32-6364
http://tonami-art-museum.jp



松尾敏男展

MATSUO TOSHIO A RETROSPECTIVE



松尾敏男(1926-2016 長崎県出身)は、17歳の時に日本美術院の同人であった壺山南風に師事し、画家としての第一歩を踏み出しました。2016年に亡くなるまで院展を主な舞台として作品発表を行い、生涯を通して常に新たなテーマを追求し続けました。花鳥画に始まり、抽象表現に挑戦し、風景、肖像、動物など種にとらわれない幅広い作風を展開しました。中でも、日本の美を再認識して描いた牡丹の作品群は、高壇の注目を集め自身の代表作となり「牡丹の画家」とまで呼ばれるようになりました。

本展は、「毎日が常に出発である」を信条としていた松尾が最後の展覧会と位置付けていたものであり、初期の作品から晩年といわれる《玄放想》まで自身が生前に選定した作品を中心に紹介します。加えて原画を手掛けた横綱白鵬関の化粧まわしや富山県美術館収蔵作品《日顔》を特別展示し、松尾芸術の全容を明らかにするものです。



画家、映画評論家、林修選手、どの道に進んでも成りたてであろう天才。松尾敏男さん。
アヴァンギャルドな発想と
軽やかな仕事への取り組み方は
日本美術の老巨匠といふイメージを醸した。

映画監督 山田洋次



《玄放想》2015年



《長崎風景》2014年 長崎県美術館蔵



《草花》2001年 京橋民衆



《日顔》1963年 富山県美術館蔵



《鳥獣》1963年 長崎県美術館蔵

■ オープニングトーク 要観覧券

日時:10月27日(土) 午前11時30分～ 1階企画展示室

講演者:松尾 由世(長崎県美術館学芸員、松尾敏男長女)

講演者:山田 洋次(日本美術院同人、代表理事)

■ ギャラリートーク 要観覧券

①日時:11月3日(祝・土) 午後1時～ 1階企画展示室

講師:森園 敦(長崎県美術館学芸員)

②日時:11月10日(土) 午後2時～ 1階企画展示室

講師:高島 雲史(日本美術院、日本美術院教授、富山大学芸術文化学部教授)

■ ワークショップ日本画に挑戦 要申込

(12歳以上日本美術院 地域連携教育プログラム)

日時:11月24日(土) 午前10時～午後3時 2階市民アトリエ

講師:高島 雲史(日本美術院、日本美術院教授、富山大学芸術文化学部教授)

対象:小学4年生以上～中学生(小学生は保護者同伴可)

定員:16名 ※定員になり次第募集の切となります。

参加費:300円 電話でお申し込みください。



・JR北陸新幹線「富山駅」または
みえの風とまち通「富山駅」より
2分徒歩に乗り換え20分「砺波
駅」下車、徒歩20分
・北陸自動車道・砺波 I.C. から徒歩
5分

TONAMI ART MUSEUM

砺波市美術館

〒929-1363 富山県砺波市高道1-6-1
(砺波チューリップ公園内)
TEL:0763-32-1800 FAX:0763-32-6364
http://tonami-art-museum.jp